

## 第2回 交野市環境基本計画策定ワークショップ 摘録

1. 日時：令和3年7月29日（木）14:00～16:00
2. 場所：交野市役所別館3階中会議室&ビデオ会議
3. 出席者：

濱 中 委員長 （環境部長）  
足 立 副委員長（公募市民）  
玉 井 委員 （公募市民）  
田 中 委員 （大阪府環境農林水産部エネルギー政策課）※Web出席  
幸 田 委員 （地方独立行政法人大阪府環境農林水産総合研究所生物多様性センター）  
西 委員 （交野市工業会）  
荒 賀 委員 （交野市商業連合会・代理出席）  
山 本 委員 （かたの環境フェスタ市民会議）  
藤 田 委員 （交野里山ゆうゆう会）  
多田羅 委員 （交野市環境基本計画推進会議・自然部会）  
北 迫 委員 （交野市環境基本計画推進会議・まちづくり部会）  
久 保 委員 （交野市環境基本計画推進会議・エネルギー部会）  
苗 村 委員 （環境部次長兼環境事業課長）  
中 井 委員 （環境総務課長）  
南 委員 （企画財政部次長）  
林 委員 （都市計画部次長）  
藤 原 委員 （都市整備部次長）  
伊 藤 委員 （学校教育部次長）

事務局 環境衛生課（古賀、谷口、魚住、宮根）  
NPO 法人木野環境（丸谷、土井、井上、岩男）

### 4. 議事

#### 1) 開会

- ・資料確認
- ・傍聴希望者の報告（傍聴希望者無し）
- ・委員の出席状況の確認、会議の成立を報告
- ・同日午前中に開催した中学生によるジュニア委員会について紹介

#### 2) 第1次環境基本計画の総括（濱中委員長）

（総括の内容）

- ・現計画は、約30名で構成される「かたの・環境を考える委員会」の方々と1年半の議論を経て2012

年3月に策定された。

・計画で掲げた4つの指標と目標について

自然保護や生物の多様性に係る指標「緑地面積及び里山保全活動用地面積」は、策定当時よりも減少傾向にある。

エネルギーに係る指標「二酸化炭素の排出量」の削減状況については、環境省が公表する資料において、順調な状況にある。

循環型社会に係る指標「ごみ処理・再生利用率」は、事業系ごみ処理量は順調に減少したが、一般家庭から排出されるごみ量と再生利用率では、更なる行動変容を促すことが求められる。

生活環境に係る指標「河川水質」は、用途地域において準工業地域と工業地域に隣接する河川では目標値を上回る状況が確認されているが、天野川では目標値を達成している。

・様々な取り組みにより策定された計画だが、プロジェクトの積み重ねから成り立っている構成が、必ずしも指標、目標との関連が明確でなかったことなど反省点もある。

・事業を推進してきた交野みどりネットからのコメント（北迫委員）

環境基本計画は第1期の10年間をむかえますが、第2期の環境基本計画でも交野の自然環境保全をはじめ環境負荷低減に資する取り組みは引き続き不可欠と感じています。また、次期計画下においても市民・事業者・行政の協働パートナーシップにより、2050カーボンニュートラルにむけた交野市の取り組みが望まれていると思っています。

3) カーボンゼロ社会 2050年の交野市の環境を考えるための情報提供（NPO 法人木野環境）

（説明内容）

- ・交野市の環境基本計画の分野を、国や大阪府の計画を参考に、エネルギー、循環型社会、生物多様性、生活環境の4分野で考えていきたい。
- ・7月に国はエネルギー計画の素案を発表し、家庭部門のCO2削減が強く言われている。
- ・エネルギー分野では、省エネ対策、自然エネルギーの普及、EV車の導入、LPガスの削減、蓄電池の導入、プラスチックの削減などが大事になってくる。
- ・交野市は事業系の廃棄物が少ないという特徴がある。
- ・循環型社会を目指すためには、ごみの分別の変更や追加、ごみの減量、食品ロス、プラスチックに取り組むことが必要である。
- ・交野市は市域の半分が緑地に覆われており、午前中の中学生ワークショップでも、緑の保全については多くの意見が出た。
- ・対策としては、外来種の対策、希少種の保護、里山保全、農地の保全などがある。
- ・生活環境は、私たちの生活に密接しているもので、騒音、振動、大気汚染、河川汚染などの対策が必要になってくる。
- ・計画策定に向けたワークショップは全5回を予定しており、本日出してもらったキーワードを元に、第3回、第4回で具体的な施策を検討する。

#### 4) ワークショップ「2050年カーボンゼロ社会の実現に向けて」(NPO 法人木野環境)

テーマ：2050年。カーボンゼロ社会を目指して、これまでの産業構造、都市構想、生活様式が変化していくことが考えられる。そのときの交野市の環境はどうあるべきか、どうあってほしいか。そのために、今から何を増やして、何を減らしたらいいか

目的：計画策定に向けて、今後の議論の前提となるキーワードを出し切る

方法：「エネルギー」「循環型社会」「生物多様性」「生活環境」の4分野で、増やすもの、減らすもの、その他を用紙に記入し、掲示板に張り出して意見を共有。

(主な意見など)

- ・ワークショップのテーマに関して、交野市の理想像・ゴールについてはこの場で共通認識がとれているのか。ゴールが見えていないと、前回の計画の反省を活かせず、また同じような結果になるのではないかという危惧がある。
- ・交野市でやったほうが良いことと、やっても意味がないことを切り分けて考える必要がある。
- ・ドラスティックな改革を可能にするには、市民の努力に期待するだけでは不十分で、システム化することが必要。
- ・いずれの対策についても、スケールメリットや経済性を考慮に入れることが必要。
- ・国や大阪府の計画とは異なり、市のレベルだとオリジナルな施策を作れるはず。
- ・4つの項目で整理したが、相互が関係するところに着目するのが大事なのではないか。
- ・ソーラーシェアリングの補助金があるが、個人が取り組むのは金銭面で難しい。
- ・床暖房・床冷房、太陽光パネルとセットにして取り組めば効率がいいのではないか。
- ・自家用車の使用を減らすことが望ましいのはわかるが、車がないと生活できないような実態があるので、その実態に目を向けることも大事。
- ・車に使う水素や電気を作るためのエネルギーについてはどう考えるのか。バイオプラ袋の製造にかかるエネルギーについても同様。
- ・エコのために原子力に傾いていく流れがあるが、それには反対の声を上げていきたい。
- ・劇的な変化に対応できるような次世代を育成するため、環境教育の分野で特化して何かできないか。
- ・ドラスティックな変革を実現するには、一部の人だけが熱心に取り組んでもうまくいかない。次世代を担う子どもたちが大事になるので、環境教育を重視する。
- ・フードドライブについて、回収場所を増やしてもらえたらいい。
- ・ゴミ袋の有料化とレジ袋の廃止は有効ではあると思うが、「市民に協力を願う」という立場では、電化製品ごとにCO2排出量を示してHPに載せる等の対策がベターかと思う。
- ・官公庁ではペーパーレス化が遅れているのでこれから取り組む余地がある。
- ・午前中の中学生ワークショップで提案された制服のリサイクルについて、コロナ禍でフリマなどの機会が減っているのでよいと思う。
- ・プラごみゼロ宣言や、七夕のライトダウンの取り組み等の行政的な取り組みも、断片的なものではなく継続的な活動ができたらと考えている。

- ・先ほどフードドライブの話が出たが、市の担当している課では受け取り場所を増やせるように今検討を進めているところである。
- ・生物多様性について、ただ守るのではなく利活用していくという視点を入れるべき。
- ・生物が住める環境を作るということで水路、農地の管理を重視したい。
- ・山の管理で大事なものは所有者の管理。
- ・高齢化によって農地や山地が減っているので早く担い手を守る仕組みを。交野市には古い家が多いので、空き家対策・今ある家を長く使えるような仕組みも必要。

## 5) その他

- ・次回へ向けての情報提供要望

太陽光パネルで市内のエネルギーを自給しようとした場合にどれくらいの規模が必要か知りたい。

CO<sub>2</sub>排出削減に関連して、各自治体の補助メニューなど参考となる取り組みを紹介してほしい。

- ・事務局より第3回ワークショップの案内

日時：8月27日（金）14:00 から

場所：市役所別館3階中会議室及びWEB会議の併用

- ・緊急事態宣言の状況によってはWEB参加を推奨する可能性がある。
- ・8/3の第2回ジュニア委員会の案内を行った。緊急事態宣言の状況によるが、傍聴も可能である。

## 6) 閉会

ワークショップで出されたキーワード

### 【エネルギー】

増やすもの：

ZEH・ZEBの普及、低炭素住宅の促進、太陽光発電・蓄電池・ZEH・EV車の補助、EV車・バイク・船、乗用車のEV化、ZEH・ZEB、公共交通機関の利用、電気自動車補助金、水素自動車、電気自動車充電スポット、カーシェアリング・レンタカーの利用、移動手段のシェア、自転車走行ルート施策、市内は自転車移動、自転車の利用、公共交通の維持、市内バスの検討、バスルートの整備、自然エネルギーの活用、太陽光発電、再エネ・太陽光発電、床暖房・冷房、蓄電システム（家庭おまかせではなく地域で）、自然エネルギー、太陽光発電のためのソーラーパネルの設置（公的施設は全て配置する方向で）、H<sub>2</sub>の活用、小水力発電、自然エネルギー設置のための補助金、RE100の普及、照明のLED化、グリーンインフラ、家電の買い換え

減らすもの：

化石燃料の使用、ガソリン車・ディーゼル車、車と思うが移動の足の体制化、宅配便の再配達など、残業、24時間営業、環境負荷の高い商品・サービスをあつかう事業者の排除、交野にはないが原子力発電

その他：

スマートモビリティ、ドローンで自動配送（運輸）、発電所見学、SDGsの浸透、エネルギーに転換するためにもエネルギーを使うと思うがその+-の関係をどう考えているのか、設置したいと思っても施設面での不十分さと資金面での不足をどうするか？、気温の変化でストーブやクーラーを利用せずにいられない・どう工夫するのか？、電化製品の電気使用料に対するCO<sub>2</sub>排出量を一覧化

### 【循環型社会】

増やすもの：

木材製品購入・木材の利用促進→林業復活、木材利用、古民家の再利用、3010運動促進、世代を超えた物々交換システム、フードドライブの拠点、3キリ運動の推進、ローカルな個人取引サービス（メルカリみたいな。輸送距離少ない・ゴミにしない）、資源ごみ、ゴミ分別項目を増してリサイクル増を図る、ゴミ分別の超細分化、再利用、ゴミの有料化、ごみ回収BOX設置場所、市民が取り組みやすいゴミ回収ルールを考える、省エネにつながる商品の購入、不法投棄の予防、リチウム・新型電池

減らすもの：

食品ロス、ゴミを減らす、燃やすごみ、商品の過度な包装、レジ袋の廃止

その他：ペーパーレス（官公庁書類）・クラウド利用

### 【生物多様性】

増やすもの：

地産地消の促進、有機農業の促進、山地の利用、農産物の直売所の設置、緑化率、生態系を活用した防災・減災、農業従事者の高齢化対策、「自然を基盤とした解決策」の視点、木陰がある公園、みどりの適切な管理、緑、湿地・湿原、緑地保全のための施策、水路（自然的）、ワンヘルスアプローチ（野生動物との適切なすみ分け）、棚田百選傍示地区の維持、農環境の維持、自然葬

減らすもの：

獣害、特定外来生物、特定外来生物の定着・分布拡大、開発、川底のコンクリート化を減らし生物の多様化を図る、耕作放棄地、放置竹林、使用しない針葉樹

その他：

里山風景、山の所有者との問題点、耕作面積が減る理由は？そのための対策をどう考え取り組むか？、農地（持続できる形）、自然（山）・里山保全にしぼる、里山保全、緑地、緑地・農地・山林・里山の保全

### 【生活環境】

増やすもの：

住宅・商店・工場（事業用）・幹線道路…土地の区分け、通学路や歩行者の多い道路に歩道の設置、観光資源の整備、地域清掃に対する支援、水＝井戸の活用

減らすもの：

空き家

その他：

今生んでいる家に長く住む、長期的な視点でのゾーニング（土地利用計画）

### 【その他】

増やすもの：

環境問題を考えるセミナーの開催、ゆとり、環境教育の機会・仕組み（大人・子供・事業者・各団体・行政・政治家…全て）、COOL CHOICE 等環境に意識を持った人・取り組む人、思い・考えの共有、当事者（意識？）、担い手、人材育成、人材育成（ESD）、環境教育（意識の向上）、行政・市民・団体・事業者…協力体制づくり

減らすもの：

他人まかせ、傍観者（環境問題は他人ゴト）空地

**【その他：あるべき姿】**

これからの目指す交野市のビジョンを明確に示す、2050 カーボンニュートラル宣言、気候非常事態宣言、交野市の強みを活かす、交野市で取り組むべきことと取り組んではいけないことを整理する、アースアワー（消灯アクション）、クールアースデー（ライトダウン）、ローカル SDGs の推進（地域循環共生圏）、4 つの項目間の連携も考える（シナジーとトレードオフ）、各プロジェクトをきちんとビジネスベースに乗せること、プラスチックゼロ宣言、調和のとれたまちづくり、小中学生への教育、環境教育の充実